

<大会開催報告>

初年次教育学会 第12回大会 開催報告

関田一彦
創価大学

初年次教育学会第12回大会は、2019年9月6日(金)から8日(日)まで、3日間にわたり創価大学(東京都八王子市)を会場に、大会参加者253名(うち、事前申込131名、当日申込98名、賛助会員企業から24名)を迎え、大過なく開催されました。ご参加いただいた会員諸氏ならびに関係者のご理解・ご協力に深く感謝いたします。

本大会は、テーマに「初年次を超える初年次教育～キャリア形成支援の視点から～」を掲げました。プログラムは、大会校・課題研究委員会合同シンポジウムを柱に、自由研究発表39件、ワークショップ5件、ラウンドテーブル4件、大会校企画ミニシンポジウム2件の構成となりました(合同シンポジウムやワークショップ・ラウンドテーブルの内容については、各報告をご参照ください)。

今回は大会校企画として、テーマに沿った2つのミニシンポジウムを用意しました。初日には「初年次教育における思考力育成の必要性と課題—民間サービス提供結果からの考察—」と題し、初年次教育を起点とした思考力育成の必要性について、様々な育成プログラムを提供している民間業者から話題提供してもらい、参加者と共に考えました。最終日には「キャリア形成の支援における初年次教育の役割—特別な支援を必要とする学生を対象として—」と題し、年々増加する特別な教育的配慮を必要とする学生への対応について、大学の内外で支援にあたっている専門家からの話題提供を基に、参加者がグループを作り、様々に意見交流を行いました。合同シンポジウムだけでは扱いきれないテーマについて、ミニシンポジウムという形で検討しあう、有益な企画になったと考えています。

大会は2日間で行われるのが通例でしたが、2日間とも朝から夕方までプログラムが詰まってしまう、少し慌ただしく感じるころもありました。そこで今回は初日のスタートを午後に、最終日の終わりを午後の早い時間に設定し、実質2日間のところを3日間としてみました。どちらが良いかは一概に判断できませんが、3日間で延べ600名以上の方が集い合い、学び合うことができました。また、本学に併設する東京富士美術館のご厚意で、大会参加者は参加証を提示することで入館無料としていただきましたので、空き時間を利用して見学なされた方もおられると思います。

今回の大会は実行委員長も含め7名の教員が、延べ50名の学生スタッフを指揮して当日の運営にあたりました。少ない人数での運営を念頭に、教育学部棟という少し小さめの建物をメイン会場としました。そのため、使用教室が複数階に分かれ昇降のご不便をおかけしたと思います。また、前回第11回大会では台風と地震という自然災害に見舞われましたが、今回も最終日には台風の接近が心配されました。全国から参加される会員の皆さまの安全を考え、閉会式を取りやめて早めの解散といたしました。このように様々な課題を抱えながらも無事故で終了できましたのは、会員の皆さまのご理解・ご協力と共に、藤本会長はじめ学会理事や事務局の方々のご支援・ご助力のおかげでございます。改めて感謝申し上げ、開催報告とさせていただきます。

(初年次教育学会第12回大会実行委員長)